

B.パウエル:カンドンブレ

バーデン・パウエルは 20 世紀ブラジルを代表するギタリスト。「カンドンブレ」とは、奴隷貿易によってアフリカからブラジルのバイーアに伝わった民間信仰で、その儀式で用いられるリズムが特徴的。

I.アルベニス(A.セゴビア編):アストゥリアス《伝説》(スペイン組曲 第1集より)

《スペイン組曲》は、全 8 曲からなるアルベニス初期のピアノ独奏曲集。その半分の 4 曲は手つかずのまま、タイトルしか残されなかったが、アルベニスの没後、出版社がこの 4 曲に他の楽曲をあてがって楽譜を出版した。本曲は、もとはピアノ独奏組曲《スペインの歌》作品 232 の第 1 曲「前奏曲」である。ギター用に編曲したのは、スペインのクラシック・ギターの巨匠アンドレス・セゴビア。

J.S.バッハの作品(秋田勇魚編)

プレリュード ニ長調(無伴奏チェロ組曲 第1番より)

J.S.バッハ《無伴奏チェロ組曲》は、ケーテン宮廷楽長時代(1717-23)前期の所産とされる。伸びやかな響きを持つ第 1 番冒頭のプレリュードは組曲中もっとも有名な楽章。間断なく続く 16 分音符の流れが、その背後で進む和声を浮き彫りにする。

前奏曲、フーガとアレグロ BWV998

1740~45 年頃の作で、当時随一のリュート奏者であったシルヴィウス・レオポルト・ヴァイスとの親交から生まれた。プレリュード(前奏曲)、フーガ、アレグロの 3 楽章からなり、簡素化されたソナタのような構成となっている。リュートまたはチェンバロのための曲で、低弦の動きに撥弦楽器の妙を生かした響きを聴くことができる。

C.ドメニコニ:コyunババ

カルロ・ドメニコニはイタリア出身のギタリスト。ドイツを拠点に活動したが、トルコでギターを教えていた経験から同国にまつわる作品もあり、1985 年に完成した本曲もその一つ。全 4 楽章からなり、エキゾチックな神秘性に包まれた雰囲気漂う。

ヴィラ=ロボス:ショーロス 第1番

「ショーロ」というのはブラジルのポピュラー音楽の一つのジャンルで、その名はポルトガル語の「ショラル(泣く)」に由来すると言われている。ヴィラ=ロボスはショーロスを計 16 曲書いているが(うち 2 曲は紛失)、それぞれ編成が異なっている。第 1 番はギター独奏のために書かれ、ブラジル音楽の大家エルネスト・ナザレーに捧げられた。

S.アサド:《アクアレル》より 第2楽章 ヴァルセアーナ

「アサド兄弟」で知られる兄セルジオ・アサドは、ブラジルのギタリスト・作曲家。貴重なギターのレパートリー作品を数多く書いている。全 3 曲からなる《アクアレル》は、1986 年の作品で、その第 2 楽章「ヴァルセアーナ」は、郷愁をさそう優しい旋律のブラジルのワルツ。

M.デュプレッシー:ウランバートル

パリ生まれのギタリスト、マティアス・デュプレッシーは、作曲家として映画音楽などにも携わる一方、ギターだけでなくマルチプレーヤーとして様々な民族楽器も演奏している。モンゴルの首都の名を冠した本曲では、エキゾチックな旋律のなかに高原を疾走する馬の蹄音が聞こえてくる。

横尾幸弘:さくらの主題による変奏曲

九州・大分出身の横尾幸弘は、戦後日本のギター黎明期に多大な貢献を果たしたギタリスト。日本の伝統曲「さくら」を主題に用いた変奏曲は、彼の代表作とも言えるもので、数種存在する。琴を想わせる響きが随所に感じられるが、もともと「さくら」は子供用の箏曲だった。

坂東祐大:花と蜜～ギターソロと朗読のための

坂東祐大は、クラシック音楽だけでなく、ドラマから映画、アニメ音楽に至るまで縦横無尽に活躍する大阪出身の現代音楽作曲家。本曲は、昨年初演された《花と蜜》(独奏ギター、フルート、ヴァイオリン、朗読)の「ギターソロと朗読のための」バージョンで、このかたちでは今回が初演となる。4つのチャプターからなり、ギター独奏と、ギターと朗読によるチャプターが交互に置かれている。詩と朗読は作曲家の妻である詩人・文月悠光(ふづき ゆみ)による。